

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	長期計画道路新設改良事業			
予算科目	8 款 2 項 3 目			
総合計画での位置付け	都市基盤の整備 道路・交通基盤の整備			
所管課情報	担当課: 土木管理課		電話番号(内線): 593	
記入者情報	所属長: 木曾 信之		担当責任者: 鍋田 豊樹	
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】平成27年度			
事業の対象	市道・車両及び歩行者			
事業の必要性	地域で生活している住民が中心市街地へ、早く安全に行き来できると共に、緊急車両の通行がスムーズにできる人命救助等に寄与できる。			
施工方法、場所	【施工方法】 請負施工	【施工場所】 伊予市内		
運営方法	【運営方法】 【運営費(予定)】			
事業の目的	新市建設計画道路における交通環境の改善を行い、交通事故を防止し、都市圏へのアクセスの円滑化を図る。			
事業の内容	現在1車線で見通しの悪い道路を部分的に改良し視距の確保と待避所を兼ねた拡幅工事を行い1.5車線の道路整備を行う。市道一ノ瀬高岡線・市道本村松尾線・市道高野川駅線・市道本郷線の4路線計画			
改善策の具体的な取り組み(当初)	市道高野川駅線については、地元役員を通じて説明会等で事業内容を関係者に丁寧に説明し、早期に用地契約を行い円滑な工事発注に努めた。			
改善策の具体的な取り組み	なし。			

事業費及び財源内訳					
項目	26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算	
事業費	直接事業費	4,300	19,823	0	19,612
	人件費	3,977	6,419	0	6,419
	合計	0	26,242	0	26,031
人件費内訳	人工数	0.50	0.80	0.00	0.80
	人件費単価	7,954	8,024	8,024	8,024
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	3,977	6,419	0	6,419
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	18,800	0	18,800
	その他	0	0	0	0
	一般財源	8,277	7,442	0	7,231

実施スケジュール							
項目	26年度以前	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度以降
測量試験費	4,300	2,732	5,000				
用地買収費	658	1,077		9,000			
支障物件補償費		1,223	2,500	3,000			
工事請負費	42,998	14,580	17,000		60,000	30,000	
年度別事業費	47,956	19,612	24,500	12,000	60,000	30,000	
財源	国・県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源	47,956	19,612	24,500	12,000	60,000	30,000
国・県支出金等名称	過疎債						

成果指標				
成果指標	整備済み延長÷計画延長(H18=163.1m、H19=220.0m、H20=134.0m、H21=163.1m、H22=68.7mH23=100.0m、H24=170.0m、H25=185.5m、H26=0m、H27=60m)			
指標設定の考え方	計画事業量に対する整備事業量の割合を上げることにより、利用者の利便性向上と通行の安全確保を図ることが出来る。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標25年度
目標	0	-	-	0
実績	-	-	-	-

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	市道高野川駅線については、高野川橋の架け替えにあわせて工事を進捗させる必要があるが、高野川橋の施工がJR委託となるため、施工区分・工程等について詳細な協議をJRと進める必要がある。 また、本事業は第1次総合計画において、基礎的條件の整備(道路・交通基盤の整備)に位置付けられており、本事業の推進により、交通の安全と住民生活の利便性向上に寄与するものである。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	事業の完了した市道一ノ瀬高岡線・市道本村松尾線は28年度事務事業評価の目的・内容から外して、建設計画で予定している路線を対象としたい。既に着手している市道高野川駅線と市道本郷線の記載をするとともに、建設計画路線(築港吾川線等)を対象とされたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 特に市道高野川駅線は、地域の生活道路としての位置付けが高く、住民からも改良事業の切なる要望があったことから、早期完成を目指すことを求む。

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標や指標設定の考え方が違うと思う。アクセスが良くなったとか交通事故が防止されたとか具体的な方が良い。 ・整備内容は総合計画に入っている。達成度を測ってもあまり意味がない。地域住民の満足度など総括的に測ると良い。 ・事業の姿がよく見えない。そもそもの計画にどんな計画があるのかよく分からない。 ・どの道路から優先的に整備するか決定する際、要望をきちんとすくい上げる仕組みがあれば入れた方がよい。 ・10年間スパンで優先度合いの高い路線をピックアップし、長期整備で進捗率を出すと分かりやすいと思う。 ・都市交通計画のように優先順位を決めていれば、それぞれの位置付けや事業の理解も分かりやすくなると思う。 ・道路の整備計画自体にどういう計画があって、今後5年間の数字にどう反映するのか説明があってもいいと思う。
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	